



# 学校だより

川越市立山田中学校

令和3年7月5日 発行

## 何をしてきたか どれだけ行ってきたか

校長 大澤由美子

男子卓球部が学校総合体育大会市予選で1位となり、県大会出場を決めました。校長室に報告に来てくれた生徒達に勝因を尋ねたところ、「メンタル」「チームワーク」という答えが返ってきました。接戦の中で勝ち取った1位と県大会出場であった話を聞き、一試合一試合を大切にしたら結果だと思いました。さらに突き詰めると、一試合の中の一球一球を大事にした結果だろうと思います。一人一人が、練習してきたことを丁寧に実践したということなのだと思います。それは、簡単なことではありません。非日常の場面で平常心を失い、普段と違うことをやろうとして失敗した、普段できていたこともできなかった、思うようにいかなかったということはよくあることです。生徒が答えた勝因は、落ち着いて粘り強く戦えた精神力と、それを支えた仲間との絆ということだと思います。

市予選前の壮行会では、今は引退している野球のイチロー選手の言葉を話しました。それは、「びっくりするような好プレーが、勝ちに結びつくことは少ない。確実にこなさないといけないプレーを確実にこなせるチームは強い」というものです。取り組んできたことを一つ一つ確実に行うことが勝つことや強さにつながるということなのだと思います。自分を信じて、仲間を信じて、そんな戦い方をしてくれてほしいという思いで、これを話しました。相手チームも勝ちたい気持ちでいることは同じですから、必ず自分達が勝てるわけではありません。また、自分の力ではどうにもできない状況になることもあります。大切なのは、その時その時にできることを一つ一つ行うことだと思います。どの部も精一杯よく頑張りました。

精神力の強さの裏には、日常の行いがあります。「日々、何をしてきたか」「これまでに、どれだけ行ってきたか」。自分でも意識していない場合も多いかもしれませんが、自分の中にある感覚が精神力につながる気がします。土台がしっかりしている人はぐらつきません。そして、困難に遭遇しても耐えて、前に進むことができます。これはスポーツに限ったことではありません。学習や人間関係、その他の学校生活、家庭での生活、幅広く言えることだと思います。積み重ねてきたものは自信となり、精神力の強さになります。積み重ねてきたものがなければその逆です。

7月は1学期のまとめの月です。「何をしてきたか」「どれだけ行ってきたか」を自分自身に問い、振り返ってみてほしいと思います。1学期に「自分はこれを頑張った」「これに取り組んだ」という自分への答えを持って1学期を終えることが大切です。答えがみつからなかった場合は、終業式までの残りの日を意識的に行動すれば、必ず答えが出てきます。毎日の小さな事にも目を向けて、頑張してほしいと思っています。